

事例 8

「男女共同参画社会の実現をめざす教育の実践に向けて」を活用した事例

校 種	中学校	学 年	3 年
テーマ	男の仕事・女の仕事		
領 域	特別活動（ 学級活動 ）		
ねらい	○ 多くの生徒の家庭では、女性が家事、男性が仕事という性別役割分担なされている。このような現状に対して、どの生徒にも家事・育児への参加を意識させ、自立心を高めるとともに、男女の相互理解と協働の大切さをつかませる。		
<p>【学習展開（概要）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「自立度チェック」（P 41）をする。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒に記入させ、集計する。 「自立度チェック」の集計を見て、気づいたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 学級の実態を踏まえ、性別役割分担の状況に気づく。 日常生活の中の「男のくせに」「女のくせに」について考える。 <ul style="list-style-type: none"> 「男のくせに」「女のくせに」と言われたときの気持ちについて発表する。 資料を通して、日本と他国との労働力率について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 「年齢階層別女性の労働力率」（P 25）などを見る。 日本と他国の女性のライフスタイルのちがいについて気づく。 教師自作資料「英首相、勤務時間減らし家事と両立」「育児休業を取った日本の男性」を読み、本時をふりかえる。 <ul style="list-style-type: none"> 資料や本時をふりかえり、感想を書く。 <p>※参考資料：「自分を生きる21」（大阪府人権教育研究協議会編集）</p>			
<p>【工夫・配慮点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちがしていることやできることなど身近なチェックを通して、自己の生活を見つめさせる。 ○ 育児休業を取っている男性の新聞記事から、女性も男性も対等に協力し合うことの大切さを考えさせたい。 			
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現代の家庭生活では、男・女ではなく、自分のことは自分で行い、まずは家族の負担を減らそうという考え方が多数であることが浮き彫りになった。 ○ 今はできなくても、結婚後は家事・育児等をやってみたい、将来育児休業を取り、子どもの日々の成長を楽しみたいという男子生徒が増えている。今後は年齢階層別女性の労働力率のグラフ形状に変化が見えてきそうである。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ● 「女だから」という注意に、「仕方がない」と思っている女子生徒はまだ多い。「仕方がない」と諦めてしまうのではなく、男女の平等や男女の相互理解、協働をめざすよう、人権学習を通して男女共同参画社会の実現をめざす教育の充実をいっそう進めていく必要がある。 		

生活自立度チェック

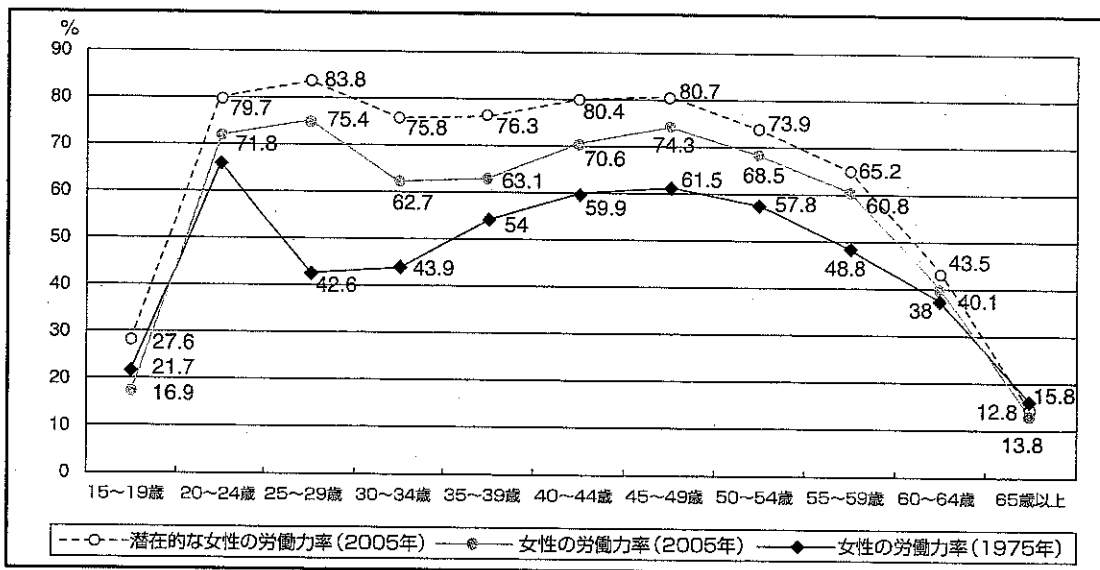
No.	家事	自分ができること	自分がしていること
		得意 ◎ できる ○ たぶんできる △ できない ×	毎日している ◎ 時々する ○ したことがある △ したことがない ×
1	洗濯機を使う		
2	洗濯物を干す		
3	洗濯物を取り入れる		
4	洗濯物をたたんで片づける		
5	ご飯を炊く		
6	買い物をする		
7	料理をする		
8	食器を洗う		
9	掃除機をかける		
10	床ぶきをする		
11	トイレ掃除をする		
12	ふろ掃除をする		
13	ゴミ出しをする		
14	ふとんを干す		
15	アイロンをかける		
16	針仕事（ボタンつけなど）をする		
17	電球を取り替える		
18			
19			
20			

今日、思ったことを書きましょう。

家庭での仕事分担表

仕事の内容	おもにしている人	ときどきしている人
ふろそうじ		
せんたく		
食事の片づけ		
部屋のそうじ		
食事の準備		
ごみ出し		
買い物		

参考資料:年齢階層別女性の労働力率



資料:総務省「労働力調査」平成17年(2005年)